┌┌┌

　場　所　北方建築総合研究所（旭川市緑が丘東１条３丁目１－２０）

先月号で開催のご案内をさせていただきましたが、詳しい内容が決まりましたのでお知らせします。
今年度はどれも夏休み自由研究のテーマになるような１０の常設の体験・展示コーナー、コンクリート小物づくりやクイズ大会、研究所内探検ツアーなどを行います。
この機会に「建築」について楽しく学んでみませんか？
詳しい内容については、ホームページをご覧ください。
http://www.hri.pref.hokkaido.jp/130803koukai.html

また、今年度も道総研の上川管内３機関（林産試験場、北方建築総合研究所、上川農業試験場）の３週連続リレー開催を行います。
スタンプラリーを行い、３箇所全てにご来場いただいた方には、すてきな記念品をお渡しする予定ですので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

（企画課　酒井）

■【サイエンスパークに出展します】

　日　時　平成２５年８月７日（水）　１０：００～１６：００
　場　所　札幌駅前地下歩行空間
　　北海道庁赤れんが

先月号でお知らせしましたサイエンスパークの実施内容が決まりましたので、お知らせします。
教室形式でさまざまな科学実験や工作体験ができる体験コーナー、簡単な科学体験もできる展示コーナー、そしてクイズ大会やゲーム等が催されるステージコーナー等、盛りだくさんのイベントとなっており、北総研は展示コーナーに出展して建築のおもしろさをお伝えしたいと思っています。
中には事前予約が必要なコーナーもありますので、詳しい内容については道総研ホームページをご覧ください。
皆様のお越しをお待ちしております。
http://www.hro.or.jp/information/event/201306241321.html

（企画課　酒井）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
　　トピックス　「北海道における空き家問題」
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

日本の総人口が減少傾向に転じ高齢化が急速に進む中、空き家問題が全国的にクローズアップされています。
住宅・土地統計調査によれば2008年時点での北海道における空き家総数は賃貸用を中心に37万4千棟あり、その内、使途の定まっていない空き家は10万9千棟

に上ります。
今後、北海道における人口減少と高齢化が加速度的に進行していくことは避けられませんので、北海道内の空き家の数も自ずと増加すると予想されます。

空き家対策に関する全国共通の課題には、管理不全な空き家の増加による景観や防犯上の問題、財産権をはじめとする私権に対する行政対応の難しさなどが挙げられます。
豪雪地帯である北海道ではこれらに雪による問題が加わるため、より深刻さが増しています。
北海道では毎冬の降雪により空き家の倒壊リスクは無雪地に比べ遥かに高くなり、屋根からの落雪の危険性もあるなど、管理不全な空き家が隣地や道路に近接する場合には、地域住民にとって具体的な危険が生じ、大きな問題となります。
このため空き家対策は建築ストックとしての利活用のみならず、除却を含めた地域の防災対策として取り組む必要があると考えます。

このような背景から、空き家の危険度をどのように評価するのかなど、自治体の空き家対策を支援する研究を現在進めています。
昨冬、所有者の許可を頂き、複数の空き家を対象とした屋根雪調査を行いました。
その結果、屋根上の積雪重量については地上の 55%～80%の範囲にあり、空き家では一般的な落雪屋根の仕様においても落雪が発生せず、地上の半分程度の積雪重量がありました。
このため空き家期間が長く、雪下ろしなどの対応がなされていない空き家では雪荷重が繰り返し作用するため損傷が進む恐れがあります。
今後も実態調査や自治体の空き家対策の動向を踏まえて研究を進めて行きたいと考えております。

（環境Ｇ　堤）

＝＝＝

る実験的検討を行っています。
実験では、暖房された住宅の小屋裏を想定した模擬屋根で屋根雪の挙動を観測しています。
また、雪の滑りやすさに影響する摩擦係数についても測定を実施中です。
その他、積雪寒冷地域の屋根葺材に求められる耐久性に関する技術資料を得るため、凍結融解試験や熱劣化試験、促進耐候性試験などを実施し、促進劣化試験前後における諸強度の変化などを測定しています。
本研究で得られた知見は、当所で公開している以下の技術資料とともに、非滑雪勾配屋根とするための設計・施工資料として活用する予定です。

現在の研究進捗については、北方建築総合研究所のホームページの他、以下のURL をご覧ください。
http://www.hri.pref.hokkaido.jp/pdf/23nenpou/47.pdf
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcsir/2012/0/2012_71/_pdf

（環境Ｇ　高倉）

＝＝＝

これまで、札幌をはじめとして、室蘭、根室、岩見沢等々色々な街に住みましたが、場所によっては結構起伏があって意外に自転車が使いづらい。
そんな中で、自転車が使いやすい平坦な旭川という街、自転車が使い易いだけじゃなく、都市の低炭素化を進める可能性も秘めている街じゃないか、旭川のそんな一面を改めて感じております。

（居住科学Ｇ　能勢）

※※※

（構造判定Ｇ　渡邊）

※※※